

愛荘町におけるくらしの実態と地域福祉の課題

—生活実態調査報告—

愛荘町社会福祉協議会

平成28年3月

愛荘町におけるくらしの実態と地域福祉の課題

—生活実態調査報告—

目 次

1. 調査に取り組むに至った経緯と目的.....	3
2. 調査の概要と調査に回答いただいた世帯の基本属性.....	5
(1) 調査の方法と特徴.....	5
(2) 調査に回答いただいた世帯の基本属性（図表4・5・6）.....	8
3. 調査からみえてきたこと（調査分析結果）.....	9
(1) 地域類型ごとの結果と分析.....	9
(2) 階層構成ごとに見た調査の結果と分析.....	14
(3) 世帯構成・子育てや介護の必要な方のいる世帯ごとに見たくらしの課題.....	17
(4) 年齢構成ごとに見たくらしの調査の結果と分析.....	20
4. 自由記述.....	21
5. 参考資料(調査票).....	22

## 1. 調査に取り組むに至った経緯と目的

愛荘町社会福祉協議会では「みんなで進める 笑顔あふれる福祉のまちづくり」の理念のもと、住民とともに「くらしの課題を ともに考え ともに歩む場づくり」を目指して、平成 24 年 2 月に愛荘町地域福祉活動計画を策定し、みんなですすめる福祉のまちづくりの活動を進めてきた。

平成 26 年度、この活動計画に基づき行った総括では、それまでの 3 年間進めてきた方向を発展させるため、改めて住民の健康や福祉、くらしの困りごとや不安なこと、地域活動などのことを聴かせていただき、今後みんなで解決していくための「しくみ」づくりの強化方向を検討していくこと、同時に、平成 28 年度中に策定し、平成 29 年度からスタートする第 2 次の活動計画策定における検討に向けた基本資料を得る必要があるとの結論に至った。これを受け、この度、生活実態調査に取り組むこととなった。

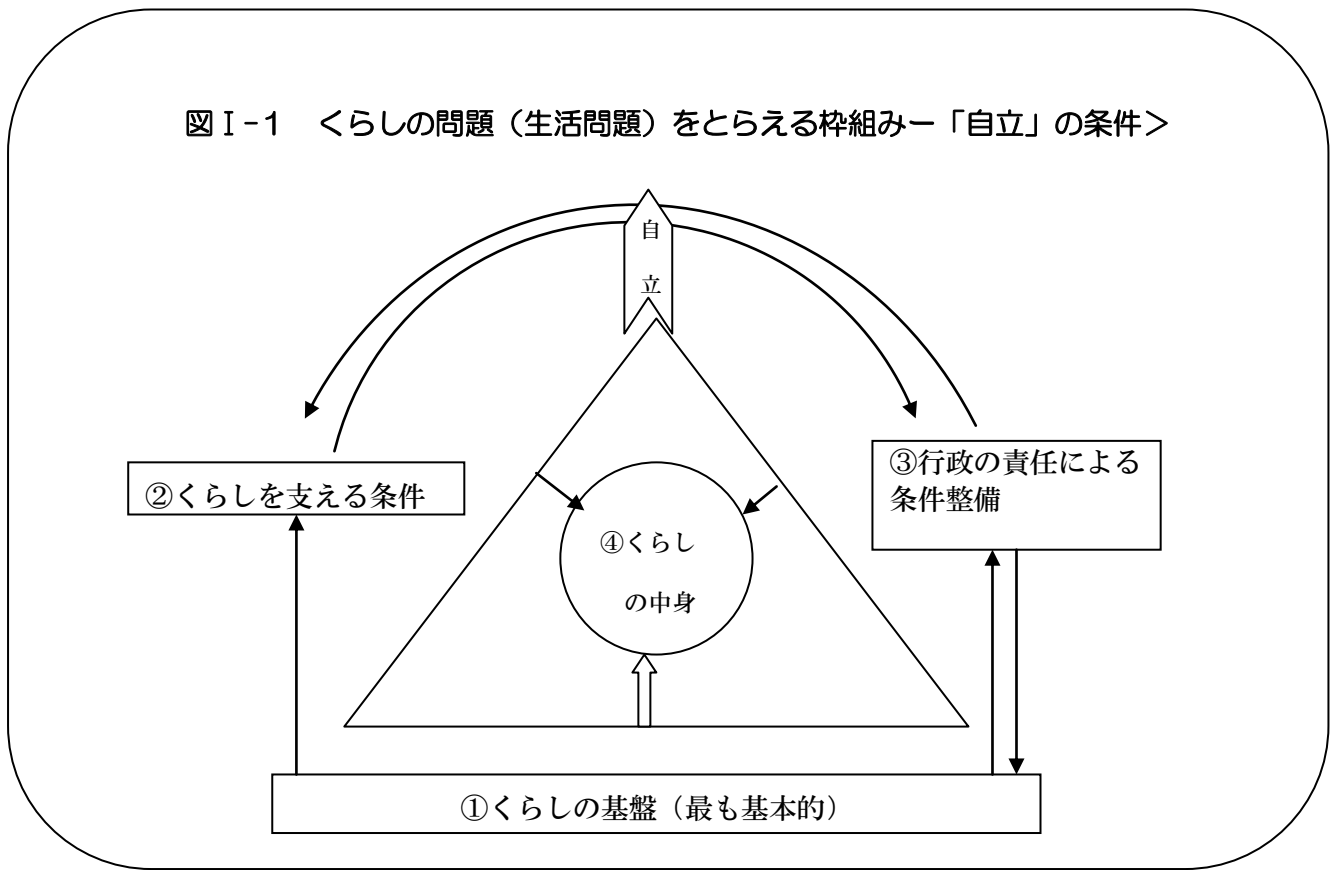
調査を進めるにあたっては、生活問題をとらえるための基本的な枠組として三塚武男によって作成された、図 I-1 の「生活問題をとらえる視点と枠組み」を参考とした。

この枠組みは、①くらしを成り立たせている基盤である雇用・労働条件、②近所づきあいの程度や相談する相手、地域活動への参加の状況、③医療や福祉をはじめとした機関や施設の整備・利用状況などを関連づけながら、地域でのくらしの実態をとらえるものである。

今回調査では、この枠組みにそった調査項目を設定し調査票を作成した。調査票の設問項目と視点と枠組みとの関連については図 I-2 の通りである。

※ 調査の考え方や方法に関しては、三塚武男『住民自治と地域福祉』法律文化社、1992 年、同『生活問題と地域福祉－ライフの視点から－』ミネルヴァ書房、1997 年を参考としている。

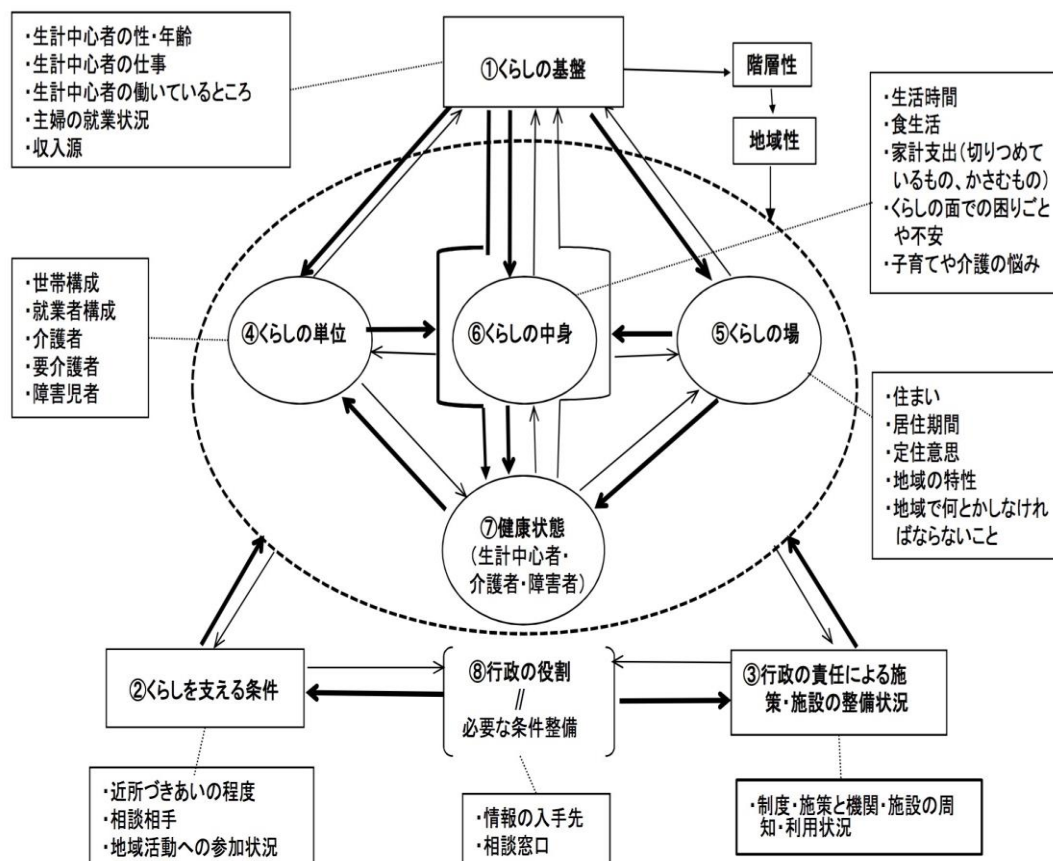
図 I-1 暮らしの問題（生活問題）をとらえる枠組み－「自立」の条件＞



- ①「暮らしの基盤」－生計中心者の就業・雇用の有無と労働条件、安全な道路・交通手段と住宅・生活環境施策、保健・医療体制⇒地域の階層性（どのような階層の住民がどれだけ住んでいるか）
- ②「暮らしを支える条件」－近所づきあいや暮らしのことで相談をする相手、地域活動などへの参加・ボランティアなど⇒住民同士の横の交流や協力
- ③「行政の責任による条件整備」－暮らし・健康を支える公共的な生活手段
- ④「暮らしの中身」－世帯の規模や構成、居住期間、睡眠休養、健康状態

三塚武男『生活問題と地域福祉』P55 より

図 I-2



出所:三塚武男『生活問題と地域福祉』ミネルウダ書房、1997年、128～129頁をもとに改変。

## 2. 調査の概要と調査に回答いただいた世帯の基本属性

### (1) 調査の方法と特徴

#### ①調査の方法と回収状況

調査の方法は一軒一軒のお宅を訪問し、聞き取りを行うという、訪問聞き取り調査を基本としている。

調査の期間は、平成 27 年 8 月 24 日から平成 27 年 8 月 31 日の 8 日間。調査に伺った世帯数は 626。そのうち長期不在あるいはすでに空家となっている等、調査期間に全くコンタクトの取れなかった世帯が 58 であった。したがって実際に調査員が対面し、調査実施ができた世帯は 568。そのうち拒否が 49 あり、最終的な回収終了数は 519。調査が実施できた世帯を母数としてみるならば回収率 91.4%となる。

調査にあたって学生調査員は、事前に大牟羅良『ものいわぬ農民』岩波新書 を調査論として読んで学習した。調査員は、大谷大学志藤ゼミの 2 年生から 4 年生までの 32 人の以下のメンバーである。なお、調査には、社会福祉協議会の方々も休日返上で一調査員として参加いただいている。

4年生	勇元 大樹	3年生	三好 真央	2年生	宵田 梓
	山下 翼		宮村 奈苗		棟長 佑年
	松島 綾音		古川 貴美		松代 恭平
	古川 貴士		藤井 楓		干場 由貴
	西森 大地		伴野 徳昭		廣井 洵
	中 麻		西澤 晴香		西井 菜穂
	佐々木 隆平		中路 陽奈		永瀬 恒太
	金田 拓夢		坂 佳祐		田治 孝介
	稲房 千華		栗田 晴香		坂本 実絵子
			一瀬 光男		大石 達也
					今西 祥子
					井上 七菜
					赤尾 優樹奈

調査票の点検作業、および調査票の自由記述やその他の回答やメモなどから類型化・コーディングするなど、データー入力前の作業、集計並びに製表の作業および本報告書の執筆については、志藤修史（大谷大学）が行った。

## ②対象地域（地域類型の区分）と実施状況

愛荘町は平成 18 年に愛知川町と秦荘町の 2 町が合併し現在の愛荘町となった。町内には 60 の字（あざ）がある。字ごとには人のまとまりや、隣接字などの相互の関係、宅地などの広がりや生活圏の違い、また、商業地、農村、住宅地といった特徴とが入り

混じった複雑な状況となっている。地域のくらしの現実を把握し、今後の地域福祉実践の手がかりを掴むためには、町内一括という把握方法ではなく、それぞれの特徴ある地域ごとに調査と分析を進める必要がある。

愛荘町の人口及び世帯数は図表1に明らかなように、人口は緩やかではあるもののやや増加傾向、世帯数は増加傾向が著しい。特に世帯数は平成2年から平成13年は毎年増加傾向にあり平成13年から平成16年は横ばいであったものが、平成17年以降再び増加に転じ、平成23年に一旦減少しているものの、その後も微増傾向が続いている。これらは明らかにニュータウンなどの大規模宅地開発などの影響を受けたものであるが、近年は大規模なニュータウン開発についての拡大は減少し、中小規模農地の宅地化などの開発傾向となっていることが背景と考えられる。

今回調査では、人口密度とロングスパンとして増加傾向にある平成2年から平成26年の24年間、増減の入り混じった平成13年から平成26年における世帯数の増減率とその特徴をクロスさせた図表2を手がかりに、既存の統計資料や町史などの資料などを用いながら、旧町毎の特徴も踏まえ、社会福祉協議会職員とともに実際の地域を踏査した上で、最終的に以下の5つの類型に区分し、それぞれの区分に該当する地域の世帯数を基礎に、最低50世帯をめどに調査母数を確定し、同時に調査対象地域を選定した。

- I. 人口密度が高く世帯数がほぼ横ばいの地域（旧来からの市街地・商業地）
- II. 人口密度が高く世帯数が増加ないしは横ばいの地域（農業地域で宅地化が進んでいる新旧混合地域）
- III. 人口密度は中位で世帯数が横ばいの地域（旧来からの住宅地）
- IV. 人口密度が高く世帯数増加の地域（新興住宅地・ニュータウン）
- V. 人口密度低く世帯数は横ばいか減少の地域（農村の集落）

図表3 地域類型別にみた調査実施の状況（実数）

地域類型	実施世帯数	回収数	回収率（%）	調査不能世帯数
I	44	40	90.9	2
II	189	168	88.9	26
III	149	144	96.6	11
IV	132	117	88.6	19
V	54	50	92.6	0
合計の値	568	519	91.5	58

（2）調査に回答いただいた世帯の基本属性（図表4・5・6）

今回調査に回答いただいた世帯の基本的属性では、生計中心者は「男性」であるが435人、「女性」である84人。生計中心者の年齢構成で男性の場合は「65歳～74歳」が最も多く27.1%（118人）次いで「55歳～64歳」で21.1%（92人）であった。女性の場合は「75歳以上」が42.9%（36人）、「65歳～74歳」が21.4%（18人）と高齢の方が多い。

世帯の構成では「夫婦と子」の世帯類型が36.6%（190世帯）、「夫婦のみ」20.8%（108世帯）、「三世代世帯」20.4%（106世帯）がほぼ同数となっている。子どものいる世帯における子どもの数では「一人」41.6%（109世帯）、「二人」40.5%（106世帯）が多い。同居している子どもの最小年齢として最も多いのは「6歳～12歳」と「31歳～40歳」でいずれも17.7%（44人）、次いで「0歳～3歳」17.3%（43人）であった。子どものいる世帯の半数が高校生までの子ども、半数は成人となった子どもとの同居となっている。同居している父母の年齢は父、母ともに70歳以上となっている。

今回調査では生計中心者の就業上の状況から階層分類を行っている。具体的には、家族以外の従業員を雇い入れて事業を営んでいる、もしくは会社の管理職として会社経営に関わっている場合を「経営者層」、事務系の職員として雇用されている場合を「ホワイトカラー層」、工場や現業労働者として雇用されている場合を「ブルーカラー層」、



30人未満の小規模経営の事業所に雇用されている場合や嘱託・派遣・パート労働などとして働いている場合を「不安定雇用者層」、自営業の場合を「自営業者層」、雇用・就業をしていない場合を「無業者層」としている。生計中心者の雇用・就業の状態は、現在の収入・所得と直接結びつくばかりでなく、高齢期の生活とも関係している、くらし全体を規定する最も基本的な条件の一つである。同時にどのような階層の住民が多くくらししている地域なのかによって、現在とこれからの地域のくらしの課題や活動の内容も影響を受ける。地域の生活問題を分析する上で必要な内容である。

今回の調査では、「無業者層」が最も多く32.2%（167人）、次いで「自営業者層」22.2%（115人）となっていた、一方で、雇用されて働く「ホワイトカラー層」「ブルーカラー層」「不安定雇用者層」を合わせると43.5%である。これら階層は雇用労働条件とくらしの状況が直結している階層といえる。

### 3. 調査からみえてきたこと（調査分析結果）

#### （1）地域類型ごとの結果と分析

ここでは今回調査した地域の類型ごとに特徴を見ていく。なお、それぞれの表中で赤色に塗りつぶしをしているのは、合計の値（合計値）より3%以上高い割合を示している。図表によっては3%以上低い割合の値を黄色で塗りつぶしているものもある。図表の分析をする上での一つの目安である。

##### ①基本的な属性（図表4・5・6）

- ・ I類型、II類型、III類型、V類型はともに、生計中心者の年齢が高く、一人っ子世帯も半数弱、比較的年齢の高い子どもが多く、親世代の年齢も高齢となっている。
- ・ IV類型の新興住宅地は、生計中心者の年齢が30代から40代で半数。子どもも2人以上で7割、子どもの年齢も若い（図表4）。

- ・ 世帯の構成では（図表5）、Ⅰ類型Ⅱ類型、Ⅳ類型はともに「夫婦と子」と「夫婦のみ」世帯が高い割合。Ⅲ類型では「三世代」世帯、Ⅴ類型でも「三世代」が多いが、「単身」も15%となっている。
- ・ 階層構成では（図表6）、Ⅳ類型以外の地域では「無業者層」の割合が高い。Ⅲ類型とⅤ類型で「自営業者層」が高く、Ⅳ類型では「ホワイトカラー層（事務系で30人以上の規模の事業所に勤めている）」や「ブルーカラー層（現業系で30人以上の規模の事業所に勤めている）」の割合が高い。Ⅰ類型では「不安定雇用者層（30人未満の事業所、パート、嘱託など）」の割合が高い。

### ②日頃の暮らしの中での困りごと（図表7）

- ・ 「税金が高い」「年金が少ない」「老後のこと」「物価が高い」「保険料（税）が高い」「医療費が高い」など、個人では解決が困難な、生活を支える社会保障・社会福祉の制度についての困りごとの割合が高い。
- ・ 「生計中心者の病気・事故」「家族の病気・事故」といった項目が不安という世帯が2割以上。

### ③くらしの中身を考える（家計構造）（図表8）

- ・ 家計を圧迫しているもの、「主食費」「光熱費」「住宅ローン」「ガソリン代・車の維持費」などの費目。
- ・ 節約しているもの「光熱費」「衣服・身のまわりの品代」「主食費」「外食費」などの費目
  - 「衣服・身のまわりの品」や「家具・家庭用品」、「外食費」や「娯楽費」などがかさんでくる状況は自立の成り立つ状況に徐々に限界があらわれてきていると考えられる。
  - 「住宅ローン」や「ガソリン代・車の維持費」「交際費」や「税金」や「公的年金などの保険料」が家計を圧迫しゆとりを奪ってきている状況と考えられる。
  - 「副食費」や「光熱費」、「教育費」「子どもの養育費」がかさんでくると、くらしに「ゆとりがなくなっている」状況をあらわしていると考えられる。

○「主食費」をきりつめているということはくらしむきが、「苦しくなっている」状況をあらわしていると考えられる。

○「医者・薬代」、「交通費」がかさむ、あるいは「副食費」、「光熱費」、「交通費」などをきりつめていると「かなり苦しい」状況をあらわしていると考えられる。

### ③健康状態（図表9）

・「血圧が高い・低い」「背中や腰が痛い・だるい」「疲れがとれない」といった身体的な疲れからくる症状の項目が多い。

・特に「相談できる人がいない」といった孤立状況にある方の健康状態は、平均の値に比べ高い項目が多く、社会的なつながりが健康状態に影響を与えていることがわかる。

### ④地域のくらしの実態と特徴-地域で日頃なんとかしなければならぬと感じていること（図表10）

・全体としては、「高齢者のみの世帯のこと」「ひとり暮らしの世帯のこと」といった、福祉やくらしの課題が高い。また、「住民同士のつながりが希薄化している」「地域活動に若い人の参加が少ないこと」といった住民相互の交流やコミュニケーションに関する割合や「空き家が増えてきたこと」「災害が発生した時のこと」「子どもが安心して遊べる場所が少ないこと」「交通マナーに関すること」など日常生活の基盤に関する割合が高い。

- ・ I類型の地域では、生活の基盤に関する項目と住民同士の交流に関する項目、福祉やくらしの課題に関する項目が相互に関連して高い割合となっている。
- ・ II類型とV類型は「特になし」が高い割合。ほとんどの項目が平均の値と同じか、それ以下となっている。
- ・ III類型は住民同士の交流と福祉やくらしの課題の項目が高い割合のものが多い。
- ・ IV類型は日常生活の基盤に関する項目で高いものが多い。

⑤各地域類型の特徴<近所付き合い・活動・相談相手・サービスの認知・定住意識・地域活動>（図表11・図表12・図表13、図表14、図表15、図表16、図表17）

- ・ I類型（人口密度が高く世帯数がほぼ横ばいの地域（旧来からの市街地・商業地）

近所付き合いは「くらしのことで話し合ったり助け合ったりしている」世帯が多い。しかし平均の値と比較すると「あいさつをする程度」が高い割合となっている。地域活動への参加は「自治会」以外では「ボランティア活動」「人権研修」「趣味・娯楽」の活動が高い割合。相談する相手は、身内以外は「知人・友人」「役場の職員」「かかりつけの医者」などであるが、全体的に幅が狭い。公的機関の認知度は高い。定住意識は平均値で85%、理由としては「住み慣れた場所だから」などの積極的理由も高いが、「今さら引っ越せない」などの消極的理由も高い。現在の生計中心者になってから住みだしているが20年以上住んでいるという割合が高い。地域福祉活動への課題意識が高い。住民同士の交流を進めようとする意識が高い。

- ・ II類型（人口密度が高く世帯数が増加ないしは横ばいの地域（農業地域で宅地化が進んでいる新旧混合地域）

近所付き合いは「くらしのことで話し合ったり助け合ったりしている」世帯が多い。地域活動への参加は「自治会」以外では「老人クラブ」の活動が高い割合。相談する相手は、身内以外は「近所の人」、「ケアマネジャー」や「かかりつけの医者」などの専門職の割合が比較的高い。公的機関の認知度はほぼ平均的かそれ以下にとどまっている。定住意識は「ずっと住み続けたい」の値が95%と高い。親の代から住んでいる方が半数弱、一方でこの5年以内に引っ越してきた世帯が平均の値と比較すると高い割合。地域福祉活動への課題意識は平均的。

- ・ III類型（人口密度は中位で世帯数が横ばいの地域（旧来からの住宅地）

近所付き合いは「くらしのことで話し合ったり助け合ったりしている」世帯が多い。地域活動への参加割合が高く、「自治会」以外では「ボランティア活動」「人権研修」「地域のスポーツ活動」「趣味・娯楽」など多様な活動に参加が高い。相談する相手は、身内以外は「近所の人」「役場の職員」「かかりつけの医者」などであり、全体的に幅

広く相談相手がいる。公的機関の認知度は高い。定住意識は高く、理由としては「住み慣れた場所だから」などの積極的理由が多いが、「今さら引っ越せない」などの消極的理由も高い。親の代から住んでいる方が半数を越え、現在の生計中心者になってから住みだしているが20年以上住んでいるという割合も高いなど長期間住んでいる方が多い。地域福祉活動への課題意識が高い。住民同士の交流を進めようとする意識が高い。

・ IV類型人口密度が高く世帯数増加の地域（新興住宅地・ニュータウン）

近所付き合いは「挨拶をする程度」の世帯が6割を超えている。地域活動への参加は「参加していない」が2割となっている。活動内容では「子ども会・PTA」の活動が高い割合。相談する相手は、身内以外は「知人・友人」と「職場の上司」が高いが限られた内容となっている。公的機関の認知度はほぼ平均的かそれ以下にとどまっているが「知っているものがない」が平均値に比較して高い。定住意識は「ずっと住み続けたい」の値が85%と平均値に比較して低く、理由も「住宅ローンが残っている」という消極的理由が高い割合。一方で「引っ越ししたい」は平均の値に比較して高い。親の代から住んでいる方は低く、20年未満で引っ越してきた世帯が多い。地域福祉活動への課題意識は交流などの項目については平均的であるが、ボランティアや住民活動への意識は低く、「特にない」が高い割合となっている。

・ V類型（人口密度低く世帯数は横ばいか減少の地域（農村の集落））

近所付き合いは「くらしのことで話し合ったり助け合ったりしている」世帯が高い割合。地域活動への参加割合が高く、「自治会」以外では「老人クラブ」「ボランティア活動」「人権研修」など多様な活動に参加が高い。相談する相手は、身内以外は「知人・友人」「民生委員児童委員・主任児童委員」などの地域の方、「社会福祉協議会の職員」「介護老人福祉施設や障がい児・者施設の職員」などが平均の値に比較して高い割合。公的機関の認知度は高い。定住意識は高く、理由としては「住み慣れた場所だから」などの積極的理由が多い。親の代から住んでいる方が半数を越え、現在の生計中心者になってから住みだしているが20年以上住んでいるという割合も高いなど長期間住んでいる方が多い。地域福祉活動への課題意識は低く、「特にない」が高い割合。

## ⑥ 地域活動の意味と役割と課題

- ・近所の付き合いの程度や活動への参加の有無など、地域でのつながりは「相談できる相手の有無」に影響を与えている。(図表18)
- ・地域活動への参加が進まなければ、近所づきあいも深まらないという関係がある。(図表19)
- ・近所付き合いの程度、活動への参加、相談できる相手の有無は公的機関の認知度と大きなかわりを持っており、住みづらさとも関連してくる。(図表20)
- ・活動への参加の有無は定住意識に直接影響を及ぼしている。また、近所付き合いも影響があると考えられる。(図表21)

近所付き合いを深め、相談できる相手の幅を増やすためには「活動への参加」が重要な要素となる。また、活動を進めるにあたっては、活動によって充実感を感じているボランティア活動やくらしや人権福祉の学習活動をいかに発展させるかがカギとなる(図表22)。図表23では、活動類型別に見た地域福祉活動の発展の条件である、「住民同士の日常的な対話や交流を広げることへの期待が高い。現在の活動のイベント的内容をいかに身近で日常的な活動へ転換できるかが問われている。

## (2) 階層構成ごとに見た調査の結果と分析

### ① 基本的な属性

- ・雇用されて働いている世帯(ホワイトカラー層・ブルーカラー層・不安定雇用者層)は「共働き」もしくは生計中心者以外の働き手がいる世帯が約7割弱となっている。無業者層の主な収入源は年金となっているなど社会保障や手当が生活を支えている。一方で、預貯金などの資産の切り崩しで生活を維持している世帯が1割を超えている。(図表25、26、27)

- ・ 雇用労働者の通勤先で多いのは「東近江市」ついで「町内」となっているが、大阪や京都などへの通勤も散見できる。帰宅時間は「午後6時まで」と「午後7時」が多いが、ホワイトカラー層では午後7時から午後10時までの時間帯で全体の合計の値より高い割合が目立つ。一方でブルーカラー層や自営業者層で「変則勤務なので決まっていない」が高い割合が目立つ。（図表28、29）
- ・ 世帯の構成では、ホワイトカラー層、ブルーカラー層で「夫婦と子」、経営者層、不安定雇用者層、自営業者層で「三世帯世帯」、無業者層で「夫婦のみ」「単身」が高い割合となっている。（図表31）
- ・ 住居はほとんどが持ち家であり、親の代からは4割、自分の代からは6割となっている。転居してくる前の居住地は県内がほとんどで、かつ町内での転居が34%を占めている。雇用労働者は半数近くが「Ⅳ類型 新興住宅地」に住んでいるが、無業者層は「Ⅲ類型 旧来からの住宅地」にくらしている割合が高い。（図表32、33、34）
- ・ ホワイトカラー層、ブルーカラー層→不安定雇用者→自営業者層→無業者層の順に年齢が高まっている傾向が出ている。（図表35）

## ② 階層ごとの特徴と課題

- 日頃のくらしの面での困りごとでは、くらしの基盤である労働に関すること、税金が高い、医療費が高いなど国や自治体を実施している社会保障・社会福祉などの政策面で「ブルーカラー層」「自営業者層」で困りごとが多いのが特徴。特にブルーカラー層では「貯金ができない」「子どもの教育・進学」「借金・ローンの返済」など健康やくらしに関わる項目も高い割合のものが多いのが特徴である。（図表37）
- このようなくらしの面での困りごとは家計の構造にも現れている。

かさむものが「ある」特に「主食費」がかさむと答えているのはブルーカラー層が高く半数を超えている。「住宅ローン」や「子どもの養育費」がかさむと答えているのもブルーカラー層である。かさむもの、きりつめているものが「ある」がとも

に高い「不安定雇用者層」「ブルーカラー層」は逼迫した生活状況になっている世帯が相対的に高いと思われるが、一方で、多くの項目できりつめた暮らしとなっているのは「自営業者層」であり、やりくりでなんとかしのいでいる状況の世帯が少なからずあることを表している。（図表38）

- 暮らしを支える交流や活動への参加状況では、ホワイトカラー層やブルーカラー層では近所付き合いとして半数が「挨拶をする程度」となっている。また地域活動への参加でもブルーカラー層は「参加していない」が15%と相対的に高い割合となっている。なお、ホワイトカラー層やブルーカラー層、不安定雇用者層などは参加していても「自治会のみ」の場合が多く、一方で自営業者層が様々な活動への参加が多いことから、「自営業者層」が活動の中心となっていることがうかがえる。ただ、参加することにつながりや住民同士の交流、子ども同士のつながりが深まるなどの参加メリットを感じるのはホワイトカラー層、ブルーカラー層で一定あり、参加の機会があれば活動への理解が広がるきっかけとなる可能性がうかがえる（図表39、40、41）
- 健康状態では、ホワイトカラー層、ブルーカラー層では「どこも悪くない」の回答割合が比較的高い。一方で無業者層に「医者に診てもらっている」「気になるところがある」が高い。（図表42）
- 日頃みぢかな地域でなんとかしなければならぬと感じていることについては、地域の活動への参加や近所付き合いが乏しい「ブルーカラー層」で「特にない」の割合が高く、様々に地域活動に参加している「自営業者層」で子どもの遊び場やゴミ問題などをはじめとする生活基盤に関すること、住民同士の繋がりなどの交流やコミュニケーションに関すること、高齢者世帯や子どもの非行など地域での福祉や暮らしに関する事など、多様な面で課題と感じている。一方で、福祉や暮らしのことでの相談窓口などをはじめとする福祉医療のサービスに関する事では「不安定雇用者層」で多くの項目が相対的に高い割合となっているなどの特徴がある。

（図表43）



- 相談相手ではブルーカラー層や不安定雇用者で身内以外の広がりがなく、また知っている機関や利用したことのある機関などでも、ブルーカラー層では「知っているものがない」「利用したものがない」など制度や相談窓口の認知や利用度が低いのが特徴である。（図表4 4）
- 定住意識は全体として「ずっと住みたい」が9割を超え高い割合となっていた。「住み慣れた場所だから」「住民同士のつながりがある」などの積極的理由が多い一方で、「今更引っ越せない」などの消極的な理由も含まれている。さらに不安定雇用者層やホワイトカラー層、ブルーカラー層では「引越したい」が比較的高いのが特徴と言える。（図表4 5）

今後地域で取り組む課題としては、すべての階層で住民自身が交流や対話を広げ、活動に参加する方向を志向している。特に自営業者層や無業者層でこれらの特徴が顕著に出ている。一方で、自治会や行政職員、専門職、社協などの役割を期待しているのは経営者層、ブルーカラー層という特徴がある。（図表4 6）

### （3）世帯構成・子育てや介護の必要な方のいる世帯ごとに見たくらしの課題

- ・ 三世代、夫婦と子→夫婦と親→夫婦のみ、単身の順に年齢が高まっている傾向が出ている。また、子どもの年齢では小学生以下と23歳~40歳までの二つのピークあるが、一人親と子の世帯の子どもの年齢では20歳以上がほとんどであり、30歳代が最も高いのが特徴である。（図表4 7）
- ・ 夫婦と子、夫婦と親という核家族世帯で共働きが半数を超えている。特に小学生以上の子どもがいる子育て世帯では共働き世帯の割合が高く7割を超えている（図表6 7）。単身世帯では年金が所得の中心を占めている（図表4 9）。介護の必要な

方のいる世帯においては「利子・配当」「預貯金」「仕送り」の割合が高い（図表 6 7）。

- ・ 「一人親と子」の世帯ではくらしの中での困りごと・悩み事が「ある」と回答した割合が8割を超えており、その内容もくらしの基盤である労働に関わること、交流・くらしを支える条件に関わること、社会保障・社会福祉に関わること、健康や暮らしに関わることなど全ての分類で高い割合のものが多く、くらしの厳しさがあらわれている。また夫婦と親の世帯では社会保障・社会福祉の課題が相対的に高く老後の不安が課題となっている（図表 5 2）。子育て世代の世帯や介護の必要な方のいる世帯では、子育て世帯が労働に関することや子育て、家計などについて困りごとを抱えている。生活の厳しさが「一人親と子」の世帯、子育てや介護者家族のいる世帯で高いことは家計構造からもわかる。図表 5 3 ではきりつめた生活をしているのが「一人親と子」「夫婦と子」で高く、かさむものでも多くの項目でかさむと回答しているのが「一人親と子」の世帯である。また図表 6 8 では子育て世帯や介護者のいる世帯ではともにかさむものもきりつめているものも「ある」と回答しているものが平均値に比較して著しく高い割合となっている。特に子育て世帯での「住宅ローン」と「子どもの養育費」「教育費」は家計を圧迫している様子がうかがえる。
- ・ 近所付き合いや地域活動への参加の状況など地域での繋がりでは、三世帯、一人親と子、単身世帯などで助け合っている割合が高いが、地域活動の参加と近所付き合いは連動しており、地域活動への参加が近所付き合いの度合いを深めるきっかけとなっていることがうかがえる（図表 5 4・5 5・5 6）。特に子どもが小学校を卒業すると地域と活動との関係が薄まり、近所付き合いも気になる傾向がうかがえる（図表 6 4・6 5）
- ・ 相談相手では「夫婦のみ」「単身」世帯で1割以上が相談できる人が身近にいないと回答している（図表 5 7）。また、地域での繋がりと同じく、小学校を卒業した後の子育て世帯でも相談できる人が身近にいないとする割合が15%を超えて高い（図表 6 3）。

- ・ 健康状態では「夫婦のみ」「単身」世帯の生計中心者の半数弱が医者にかかっており、80%以上が気になる症状があるなど、あまり健康とはいえない状況になっている。「一人親と子」の世帯の生計中心者は身体的な疲れや精神的ストレスの症状を訴える割合が高い（図表58）。さらに介護の必要な方のいる世帯の生計中心者では、医者にかかっている割合が半数弱、精神的なストレスからくる自覚症状も比較的に高いものが多いのが特徴である。子育て世帯では疲れが取れないなどの疲労が高い割合となっている（図表69）。
  - ・ 地域でなんとかしなければならぬと思っていることでは、介護の必要な家族のいる世帯で多くの項目があげられている（図表62）。夫婦のみ世帯と夫婦と子の世帯で地域の課題を認識されている割合が高く、夫婦と親、単身世帯では地域課題についてはあまり認識がされていない。全体的に高い割合となっている「高齢者のみの世帯のこと」「災害が発生した時のこと」などでも世帯類型によって差があり、地域の共通課題が世帯類型からは見出しにくい（図表59）。
  - ・ 定住意識は全体的に高いが、「夫婦と子」の世帯では引越したいとする割合が7%となっている（図表60）。子育て世代で定住意識が平均値より低く、小学校を卒業した以降の世帯で引越したいが1割を超えている（図表70）。
  - ・ 地域で取り組む課題については、三世代でほぼすべての項目で平均値より高く（図表61）、また小学生以上の子どもがいる世帯でも高い割合となっており、期待は高いことがうかがえる（図表71）。
- 生活状況は「一人親と子」の世帯、小学校卒業以上の子どもがいる世帯で厳しい状況である。
  - 子育て世帯では、小学校を卒業するとPTAなどの子どもを介した地域とのつながりが薄れるとともに、親の介護、仕事の上での責任、教育費の増加など生活を襲う危機が増加する傾向にある。労働の悩みや家計構造、地域とのつながりの希薄化などがその現実をあらわしている。
  - 単身世帯では高齢で年金生活中心の生計中心者が多い。単身世帯では、また年金が少ないや医療機関が近くにないなどの悩みはあるものの、家計についてはきりつめ

たりかさんだりするものは特になく、近所付き合いも比較的活発であるが、一方で地域活動への参加は自治会や老人クラブ以外はあまりなく、相談できる人がいない方も1割を超えるなど密な関係での人付き合いになっているとは言い難い。健康状態も良好とは言い難く、地域での活動などへの期待や参加意識も高いとは言い難い。ただ地域での一人暮らし高齢者のことはなんとかしなければと思っており、医療機関などの施設の少なさも気になっている割合が若干高いのが特徴である。

一人親と子の世帯は成人した子どもと中高年齢以上の親との生活となっているが、家計構造から生活の厳しさがうかがえるとともに、今後の生活への不安が高いという結果になっている。

#### (4) 年齢構成ごとに見たくらしの調査の結果と分析

- ・ 日頃のくらしの面での困りごとは60歳以下の稼働年齢層であり子育て世代層において高い割合の項目が多い。労働の問題と社会保障の基盤の問題がくらしの問題を生み出していることがうかがえる(図表7.2)
- ・ 相談する相手は年齢が高くなればなるほど専門職の項目が増加する傾向になっている(図表7.3)また、近所付き合いの程度、地域活動への参加なども年齢が高いとその内容も広がり関係も深まっているとみられる(図表7.4・7.5)。参加の内容では年齢ごとによかった点や参加していない理由などに特徴が見られるが、若い子育て世代においては子どもによる繋がりが地域とのつながりとなっていることが明らかである。一方で高齢者の参加していない理由に「内容に関心がない」「参加したいとは思わない」など今後参加を促すのに困難な理由が高い割合であるものの、今後の活動では世代間交流などへの関心が高いなど、ニーズに応じた活動内容を工夫する必要がある(図表7.6・7.9)

- ・ 地域でなんとかしなければならないことは、40代までの層で生活基盤に関すること、50代以上で地域のつながりに関することや暮らしに関すること、多くの世代で福祉や医療サービスに関することなどに高い割合の項目が多く、世代ごとと世代別の課題の違い、共通する内容が明確になっている（図表77）。

#### 4. 自由記述

自由記述は調査項目の最終にこのアンケートについてとその他どのようなことでも自由に述べていただいたものを調査員が書き取ったものである。

自由記述で特徴的な点は、今回調査の主体であった社会福祉協議会への励ましの言葉が目立つ点である。「もっとPRを」や活動内容がわかりにくいのでわかりやすくなどである。また、対面聞き取り方式ならではの立ち入った話も多く、昼間に災害が起きた時の女性の不安、比較的子育て環境の整った地域に対する自慢や、若い方が街を出て行くことに対する不満など、半数近い方がアンケート項目に限らない、日頃の思いを丁寧に回答いただいている。今後の社会福祉協議会の活動のみならず、自治会などの活動にも役立つ内容が多く寄せられている。

調査自治会名
調査員名

問1 一緒にくらしている人についてお答えください。

イ) 生計中心者の年齢、性別についてお答えください。

性別 → 1. 男 2. 女

年齢 → 1. 25歳未満 2. 25歳～34歳 3. 35歳～44歳

4. 45歳～54歳 5. 55歳～64歳 6. 65歳～74歳

7. 75歳以上

ロ) 一緒にくらしているすべての人に○印をつけてください。(生計中心者からみた続柄でお答えください)

1. 配偶者 ( 歳)

2. 未婚の子ども (人数は 人)

(未婚の子どもの年齢は 歳 / 歳 / 歳 / 歳)

3. 結婚している子ども ( 歳) 4. 子どもの配偶者 ( 歳)

5. 父親 ( 歳) 6. 母親 ( 歳)

7. きょうだい ( 歳 / 歳)      8. 孫 ( 歳)

9. その他、同居している人 ( 歳 / 歳)

問2 生計中心者の方の日頃の健康状態について、なにか気になっていることはありますか。 (あてはまるものすべてに○印をつけてください)

1. 朝、気分よく起きることができない
2. 夜よく眠れない
3. 疲れがとれない
4. からだがだるい
5. 血圧が高い・低い
6. 胃腸の調子がよくない
7. 夜12時過ぎに寝ることが多い
8. 肩・首すじがこる
9. 眼が疲れる
10. 目まいがする
11. 歯が悪い・虫歯がある
12. 物忘れをすることが多い
13. 腕や手がしびれる・痛い
14. どうきやいきぎれがする
15. 足が重い・だるい
16. ひざが痛い
17. 背中や腰が痛い・だるい
18. 人と話すのがおっくうである
19. あまり歩かない
20. イライラしやすい
21. タバコがやめられない
22. ささいなことが気になる
23. これから先どうなるのか不安である
24. 医者に診てもらっている
25. どこも悪くない
26. その他 ( )

問3 生計中心者が現在加入されている健康保険の種類は何ですか。(あてはまるものに○をしてください。)

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 国民健康保険            | 2. 共済組合・組合管掌健康保険(本人) |
| 3. 共済組合・組合管掌健康保険(家族) | 4. 協会健康保健(本人)        |
| 5. 協会健康保険(家族)        | 6. 日雇健康保険            |
| 7. 後期高齢者医療(75歳以上)    | 8. 医療扶助(生活保護)        |
| 9. その他( )            |                      |

問4 一緒にくらしている人の中で、病気や障がい、高齢のためになんらかの介護を要する人はいますか。

1. いない 2. いる

イ) その方は現在どこにお住まいですか。(あてはまる場所すべてに○印をしてください)

- 1. 同居している      2. 入院している      3. 施設に入所している
4. 近所に住んでいる      5. その他( )

ロ) それはどなたですか。(生計中心者からみた続柄でお答えください)(あてはまる人すべてに○印をしてください)

- |              |            |           |
|--------------|------------|-----------|
| 1. 生計中心者     | 2. 配偶者     | 3. 未婚の子ども |
| 4. 結婚している子ども | 5. 子どもの配偶者 | 6. 父親     |
| 7. 母親        | 8. きょうだい   | 9. 孫      |
| 10. その他( )   |            |           |



→ハ) 介護を担っておられる中心的な人はどなたですか。(生計中心者からみた続柄でお答えください。)(あてはまる人すべてに○印をしてください)

- |              |             |           |
|--------------|-------------|-----------|
| 1. 生計中心者     | 2. 配偶者      | 3. 未婚の子ども |
| 4. 結婚している子ども | 5. 子どもの配偶者  | 6. 父親     |
| 7. 母親        | 8. きょうだい    | 9. 孫      |
| 10. 介護専門職員   | 11. その他 ( ) |           |

問5 ご家庭では、日頃くらしや福祉・医療の面で困っていることや心配だと思っ  
ていることはありますか。

1. ない

2. ある

→ イ) 具体的には (あてはまるものすべてに○印をつけてください)

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1. 生計中心者の病気・事故        | 2. 家族の病気・事故    |
| 3. 安心してかかれる医療機関が近くにない | 4. 医療費が高い      |
| 5. 入院費用がかかる           | 6. 通院が困難       |
| 7. 病人や老人・障がい者の介護      | 8. 働き手の死亡      |
| 9. 労働時間が長い            | 10. 通勤に時間がかかる  |
| 11. 自由な時間や休日が少ない      | 12. 賃金、事業収入が低い |
| 13. 失業や事業の不振          | 14. 就職が困難      |
| 15. 仕事の後継者がいない        | 16. 子育てのこと     |
| 17. 子どもの教育・進学         | 18. 子どもの通学・通園  |

- |                                 |                   |
|---------------------------------|-------------------|
| 19. 住まいのこと                      | 20. 借金・ローンの返済     |
| 21. 食生活のこと                      | 22. 炊事・洗濯・掃除などの家事 |
| 23. 収入が不安定                      | 24. 年金が少ない        |
| 25. 家計の赤字                       | 26. 貯金ができない       |
| 27. 税金が高い                       | 28. 保険料（税）が高い     |
| 29. 物価が高い                       | 30. 近所つきあいがむずかしい  |
| 31. 地域での共同作業に出るのがむずかしい          |                   |
| 32. 相談相手がない                     | 33. 家庭での対話が少ない    |
| 34. 結婚がむずかしい                    | 35. 家族がそろう時間がない   |
| 36. 老後のこと                       | 37. 災害時の備え        |
| 38. その他（                      ） |                   |

問6 日頃、くらしや医療・福祉のことで相談する相手はどなたですか。

1. 相談できる人が身近にいない

2. いる

→ イ) 具体的には (あてはまるものすべてに○印をつけてください)

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 1. 配偶者    | 2. 子どもの配偶者    |
| 3. 親      | 4. きょうだい      |
| 5. 同居の子ども | 6. 同居していない子ども |
| 7. 親せき    | 8. 知人・友人      |

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 9. 近所の人                 | 10. 自治会の区長・役員        |
| 11. 民生委員児童委員・主任児童委員     | 12. 福祉推進委員           |
| 13. 健康推進員               | 14. 職場の上司、同僚         |
| 15. 役場の職員               | 16. 議員               |
| 17. 保健師                 | 18. 保育所・幼稚園・学童保育所の先生 |
| 19. 介護老人福祉施設や障がい児者施設の職員 |                      |
| 20. 社会福祉協議会の職員          |                      |
| 21. ケアマネジャー             | 22. ホームヘルパー          |
| 23. かかりつけの医者            | 24. 学校の先生            |
| 25. インターネットやSNSを介した知り合い |                      |
| 26. その他 ( )             |                      |

問7 くらしや健康、福祉にかかわる相談窓口として知っている機関・施設に○印を、また、実際に利用したことがあるものには◎をつけてください。(あてはまるものすべてに○、◎印をつけてください)

○と◎があります

- |                             |                |
|-----------------------------|----------------|
| 1. 町役場                      | 2. 町保健センター     |
| 3. 子育て支援センター「あいつ子」          | 4. 町地域包括支援センター |
| 5. 地域総合センター<br>(長塚・川久保・山川原) | 6. 保育園・幼稚園     |
| 7. 小中学校                     | 8. 愛知高等学校      |
| 9. 社会福祉協議会                  | 10. 医療機関       |

(愛の郷・いきいきセンター)

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 11. 町内介護老人福祉施設 | 12. シルバー人材センター  |
| 13. 学童保育所      | 14. 図書館         |
| 15. 愛知川公民館     | 16. 秦荘けんこうプール   |
| 17. 障がい児・者の施設  | 18. ハーティーセンター秦荘 |
| 19. 町民センター     |                 |
| 20. ハローワーク     | 21. その他 ( )     |
| 22. 知っているものがない | 23. 利用したものがない   |

問8 生計中心者のお仕事は次のどれにあてはまりますか。それぞれあてはまるものに○をつけてください。

1. 働いている 2. 働いていない (2. の場合は、下記「ニ」にお進みください。)

→イ) 生計中心者の仕事について、あてはまるものに○印をつけてください。

1. 主として家族でやっている自営業 (下記のア～クのいずれかに○)

- |          |          |            |        |
|----------|----------|------------|--------|
| → ア. 建設業 | イ. サービス業 | ウ. 製造業     | エ. 運送業 |
| オ. 農業    | カ. 小売・商業 | キ. その他 ( ) |        |

2. 他人を3人以上雇って事業を営んでいる

3. 部長(規模300人以上の)以上の管理職

4. 公務員や専門・技術職などの正職員 (下記のア、イ、ウのいずれかに○)

- |              |            |
|--------------|------------|
| → ア. 事務系の公務員 | イ. 現業系の公務員 |
|--------------|------------|

ウ. 専門・技術職その他（具体的には \_\_\_\_\_ ）

5. 規模 30 人以上の事業所・団体の正職員（下記のア、イいずれかに○）

→ ア. 事務職・営業職      イ. 現場・労務職

6. 規模 30 人未満の事業所に正職員で雇われている

7. 商業・サービス関係に雇われている

8. 短期的な雇用・臨時・日雇い・派遣・嘱託など（下記のア～エのいずれかに○）

→ア. 契約・派遣・嘱託      イ. 臨時・日雇

ウ. パート・アルバイト      エ. 内職

9. その他（具体的には \_\_\_\_\_ ）

→ロ）生計中心者の勤務先はどこですか

1. 自宅                      2. 町内                      3. 彦根市                      4. 東近江市

5. 近江八幡市              6. 豊郷町                      7. 甲良町                      8. 多賀町

9. 日野町                      10. 竜王町                      11. 草津市                      12. 大津市

13. 京都市                      14. 京都府内の市町村（ \_\_\_\_\_ ）

15. 大阪府内の市町村（ \_\_\_\_\_ ）

16. 滋賀県の市町（ \_\_\_\_\_ ） 17. その他の都道府県（ \_\_\_\_\_ ）

→ハ）帰宅時間はおおむね何時頃でしょうか（1 週間の平均的な時間でお答えください）

1. 午後 6 時                      2. 午後 7 時                      3. 午後 8 時                      4. 午後 9 時

5. 午後 10 時                      6. 午後 11 時                      7. 午後 11 時以降

8. 変則勤務なので決まっていない

二) 現在、生計中心者が働いていない場合の理由をおたずねします (あてはまるものすべてに○印をしてください) ←

1. 病気・けが      2. 障がい      3. 高齢      4. 定年      5. 失業  
6. 家事              7. 介護      8. 育児      9. その他 (              )

問9 一緒にくらしている人のお仕事についておたずねします。働いている人すべてに○印をつけてください。 (生計中心者からみた続柄でお答えください。)

1. 配偶者                                  2. 未婚の子ども  
3. 結婚している子ども                  4. 子どもの配偶者  
5. 父親                                  6. 母親                                  7. きょうだい                          8. 孫  
9. その他の同居者 (                          )

問10 ご家庭での収入源は何ですか。(あてはまるものすべてに○印をつけてください)

1. 生計中心者の仕事による収入                  2. その他の同居家族の仕事による収入  
3. 厚生年金や恩給・共済組合の年金                  4. 国民年金  
5. 失業給付                                  6. 子ども手当・児童扶養手当  
7. 特別児童扶養手当・特別障害者手当等                  8. 生活保護  
9. 地代・家賃                                  10. 利子・配当



問12 (実際に家計をあずかっている人におたずねします。)毎月のくらしのなかで、支出を切りつめているものがありますか。

1. ない

2. ある

↳ イ) 具体的には (あてはまるものすべてに○印をつけてください。)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 主食費          | 2. 副食費          |
| 3. 外食費          | 4. 水道代          |
| 5. 光熱費          | 6. 衣服・身のまわり品代   |
| 7. 家具・家庭用品代     | 8. こづかい         |
| 9. 酒・タバコ代       | 10. 娯楽費         |
| 11. 交際費(冠婚葬祭含む) | 12. 旅行費         |
| 13. 貯金          | 14. 薬代などの医療費    |
| 15. 看護・介護のための費用 | 16. タクシー代などの交通費 |
| 17. 電話代などの通信費   | 18. ガソリン代・車の維持費 |
| 19. 教育費         | 20. その他( )      |

問13 現在の住まいは次のうちどれにあてはまりますか。

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| 1. 一戸建ての持ち家   | 2. 分譲のマンション・棟続きの持ち家  |
| 3. 公営・公団の賃貸住宅 | 4. 一戸建ての民間借家・賃貸マンション |
| 5. 民間アパート     | 6. 社宅・寮              |
| 7. その他( )     |                      |



問14 現在のところには、いつ頃からお住まいですか。

1. 親（あるいはその前）の代から

2. 現在の生計中心者から（イ、ロにお答えください）



イ) 居住期間はどれくらいですか

1. 1年未満

2. 1年～5年未満

3. 5年～10年未満

4. 10年～15年未満

5. 15年～20年未満

6. 20年以上

→ロ) 前住地（直近）はどこですか

1. 町内

2. 滋賀県内の市町( )

3. 京都府内の市町村( )

4. 他の都道府県( )

問15 日頃、近隣とどのようなつきあいをしておられますか。

1. ほとんどつきあっていない

2. あいさつをする程度

3. くらしのことで話しあったり助けあったりしている

→ イ) 具体的には (あてはまるものすべてに○印をつけてください。)

1. 困りごとや悩みを相談し合う

2. 家にあがりこんでのつきあいをしている
3. 留守を頼む
4. お年寄りの話し相手
5. お年寄り・子どもの世話を頼む
6. 自分の家で作ったものをわけあう
7. 買い物を引き受ける
8. 買い物や受診の送迎を引き受ける
9. 買い物や受診の送迎を頼む
10. 緊急時の連絡や援助を頼まれている
11. その他 ( )

問16 ご家庭（生計中心者とその家族）では、どのような地域活動や地域で行われる学習会に参加されていますか。

1. 参加している      2. 参加していない（二、にお答えください）

→イ) 参加されている活動はなんですか （あてはまるものすべてに○印をつけてください）

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1. <u>自治会</u>  | 2. 生活協同組合       |
| 3. 老人クラブ       | 4. 農業協同組合       |
| 5. 女性会・婦人会     | 6. 福祉の学習会       |
| 7. 子ども会・PTA 活動 | 8. 当事者組織やサークル活動 |

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 9. 自警団・消防団     | 10. くらしや健康に関する自主的な学習会 |
| 11. 人権研修       | 12. 環境保護の活動           |
| 13. 地域のスポーツ活動  | 14. まちづくりやむらおこしの活動    |
| 15. 福祉団体や施設の活動 | 16. 趣味・娯楽             |
| 17. ボランティア活動   | 18. NPO の活動           |
| 19. 生涯学習       | 20. 日赤奉仕団             |
| 21. その他 ( )    |                       |

→ロ) 自治会の活動に参加しているとお答えいただいた方におたずねします。

活動のなかで日頃感じていることや困っていること、悩んでいることは何ですか。 (あてはまるものすべてに○印をつけてください。)

1. 役のなり手がいない
2. 若い人の参加が少ない
3. 会議や行事が多い
4. 新旧自治会内の人間関係が難しい
5. 行事をしても参加者が少ない
6. 身近なところで活動できる施設や拠点が少ない
7. 自治会費の確保が困難
8. 活動についての情報が少ない
9. 研修・訓練や学習の機会が少ない
10. 他の自治会と交流する機会が少ない
11. 自治会の取り組みだけではどうすることもできない問題が多い

12. 役員の負担が大きい
13. いつまで活動が続けられるか自分の健康が心配
14. 自治会費は支払っているが活動には参加できていない・参加したくても  
自分自身に時間がない
15. その他（具体的には \_\_\_\_\_ ）
16. 特にない

→ハ) 自治会の活動に参加して、良かったことはありますか。 （あてはまるもの  
すべ

てに○印をつけてください）

1. 自治会の行事や役割を知ることができた
2. 同じ自治会に住む人のことを知ることができた
3. 自治会の課題を知ることができた
4. 自治会の役をされている方の大切さを知った
5. 近隣住民に関心を持つようになった
6. 近隣住民とのつながりができた
7. 子ども同士の交流ができ、子どもの成長につながる
8. 親同士の交流が増えた
9. 地域社会の役に立っていると感じた
10. その他（ \_\_\_\_\_ ）
11. 特にない

二) 参加していない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○印をつけてください)

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 1. 仕事が忙しい        | 2. 子どもの学校行事などが忙しい   |
| 3. 趣味や家族に時間を使いたい | 4. いつ開催されているのか分からない |
| 5. 内容に関心がない      | 6. 一緒に参加する人がいない     |
| 7. 参加したいと思わない    | 8. 参加する年代として若すぎる    |
| 9. その他 ( )       |                     |

問17 日頃、自治会活動などの地域で集まったり話し合ったりする場所についておたずねします。

日頃から集まったり話し合ったりする際に利用される場所はありますか。

1. ある      2. ない      3. 集まりに参加していないので利用していない

→イ) 具体的に(あてはまるものすべてに○印をつけてください)

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1. 愛知川公民館          | 2. 図書館             |
| 3. 町役場             | 4. 町民センター          |
| 5. 子育て支援センター「あいつ子」 | 6. 町立スポーツセンター等     |
| 7. 町立体育館           | 8. 町立児童遊園地等        |
| 9. 小学校             | 10. 中学校            |
| 11. 高等学校           | 12. 保育園            |
| 13. 幼稚園            | 14. 自治会の公民館、草の根ハウス |

15. 社会福祉協議会（愛の郷・いきいきセンター）
16. 地域総合センター（長塚・川久保・山川原）
17. 自治会の運動公園
18. ハーティーセンター秦荘
19. 介護福祉施設
20. その他（ ）

→ロ) 主に利用している場所について、不便に感じていることは何ですか。

（あてはまるものすべてに○印をつけてください）

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. 利用の手続きが手間である      | 2. 利用できる時間帯が合わない  |
| 3. 利用の目的が限られている      | 4. 利用料が高い         |
| 5. 他の行事や活動があると利用できない | 6. トイレが使いにくい・少ない  |
| 7. コピーや印刷できる設備がない    | 8. 資料などを保管する場所がない |
| 9. 集会室が少ない、狭い        | 10. 調理できる設備が不備である |
| 11. 駐車場がない・狭い・遠い     | 12. 冷暖房の設備が不十分    |
| 13. 相談できる職員や管理者がいない  | 14. 車イスで利用しにくい    |
| 15. 階段が大変            | 16. 掃除や管理が手間である   |
| 17. その他（ ）           | 18. 特にない          |

問18 現在、地域のなかで何とかしなければならぬと思っていることは何ですか。

（あてはまるものすべてに○印をつけてください）

### 【福祉・医療の制度やサービスに関すること】

1. くらしや福祉のことで気軽に相談できる窓口のこと
2. くらしや医療・福祉のことで利用できる機関・施設のこと
3. くらしや医療・福祉のことでいつでも相談できる専門職員が少ないこと
4. 介護を必要とする高齢者の利用できる施設のこと
5. 障がい者・障がい児のためのサービスや施設のこと
6. 保育園や幼稚園・学童保育に関すること
7. 公共施設や福祉施設の場所がわからないこと
8. 医療機関が身近に少ないこと
9. 救急・休日・夜間の医療体制のこと

### 【交流やコミュニケーションに関すること】

10. 住民のつながりが希薄化していること
11. 住民同士の助け合いのこと
12. 多様な年齢間での交流が少ないこと
13. 外国籍住民との交流のこと
14. 地域活動に若い人の参加が少ないこと

### 【日常生活の基盤に関すること】

15. 地元の産業の振興に関すること
16. 地元での働き口や仕事が少ないこと
17. 収入の少ない世帯のこと
18. 子どもが安心して遊べる場所が少ないこと

19. 買い物や通院の移動手段のこと
20. 交通マナー（路上駐車や暴走など）に関する事
21. 不審者など防犯に関する事
22. ゴミのマナーに関する事
23. 災害が発生した時の事

**【地域での福祉やくらしの課題に関する事】**

24. ひとり親世帯の事
25. 子育てに不安を抱えている世帯の事
26. 子どもの非行やいじめの事
27. 子どもたちの不登校の事
28. 高齢者のみの世帯の事
29. 寝たきりや認知症の高齢者世帯の事
30. 障がい者・障がい児の世帯の事
31. 高齢者や障がい者が安心して利用できる交通手段が少ない事
32. 見守りが必要と思われる世帯の事
33. ひとり暮らしの世帯の事
34. 成人のひきこもりに関する事
35. 空家が増えてきた事
36. 自治会や地域の団体役員等のなり手が無い事
37. 人権や福祉・健康などの学習会の事
38. その他（具体的に )



39. 特にない

問19 お住まいの地域に今後も住みつづけたいですか。(1~4のあてはまるものに○印をつけてください)

1. ずっと住み続けたい (あてはまるものすべてに○印をつけてください)

- ① 住み慣れた場所だから
- ② 住民同士のつながりがある
- ③ 生活するのに環境が整っている
- ④ 自然環境がいい
- ⑤ 新しく家を購入したから
- ⑥ 今さら引っ越せない
- ⑦ 住宅ローンが残っている
- ⑧ その他

[ ]

2. 引っ越したい → ①町内 ②町外 ③県外 ④決めていない

理由 [ ]

3. わからない

理由 [ ]

4. その他 (具体的には )

問20 お互いに力を合わせて、安心して暮らせるまちづくり（地域福祉活動）をすすめる上で必要だと思っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○印をつけてください）

1. 住民相互の日常的な対話・交流を広げる
2. 高齢者や障がい者と子ども・若い人たちとの交流を広げる
3. 民生委員児童委員と福祉推進委員・ボランティアなどの連携を強化する
4. 地域で住民のくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす
5. 地域で取り組まれている活動の交流や学習会を開催する
6. ボランティア活動・地域福祉活動への参加者をもっと増やす
7. 地域で自主的に行われている福祉活動を支援する

（具体的には \_\_\_\_\_ ）

8. 自治会などで住民の身近なくらしや健康，安全・防犯などの問題に取り組む
9. くらし・健康や福祉にかかわる職員と住民が交流・学習できる機会をつくる
10. 地域の課題にあわせて、住民や行政・社協・企業などみんなで取り組みを進める
11. 行政の施策を分かりやすく住民に知らせる
12. 社協の事業を分かりやすく住民に知らせる
13. ボランティア活動や地域福祉活動の場を充実させる
14. ボランティア活動や地域福祉活動のことを相談できる専門職を増やす

15. 身近な地域に障がい者や子ども、高齢者などがいつでも利用できる施設を整備する

16. その他（具体的には \_\_\_\_\_ ）

17. 特になし

問2 1 この調査の感想や意見、社協に期待することなどをお聞かせください。